

平成20年度 兵庫県立兵庫高等学校 学校評価票

年度目標		「質素剛健・自重自治」の具現化 ・文武両道を目指す ・キャリア教育の充実 ・マナーの向上		評価の基準 A:よくできた、 B:できた、 C:改善の余地がある		
領域	評価の観点	評価項目	番号	具体的方策(実践目標)	自己評価	成果 課題
学校経営	開かれた学校づくり	PTAと連携した活発な学校づくり	1	PTA運営委員会、PTA理事会、理事総会、各学年保護者会を通じて、連絡調整を行う(3年・年2回、1・2年・年1回)	B	3 担当者のおかげで、ホームページの更新がうまく進んだ 4 学年通信が本来あるべき真面目なものに変わったのがよい
			2	必要に応じて各学年は、より密接な連絡をとる	B	
		保護者・卒業生・地域への情報発信	3	ホームページの更新を実施し、常に新しい情報の発信を心がける	B	1 PTAの配布物等の連絡がないときがあった 3 ホームページの更新がより簡単になることが望まれる / 更新がなかなかできない / ホームページ担当の教員を選び出すか、ホームページ用の文書を作る上での知識・技術を得る機会を設けるか、どちらかが必要 / 定期的に確認する余裕がない 4 情報発信というより感想文のみになっている 5 授業見学は素通りするだけの形式的なものであった。「校内見学」と呼ぶ方がふさわしい
			4	学年通信を通じて、学校行事の取り組みと成果、進路情報等を保護者に伝える	A	
		学校紹介の推進	5	オープン・ハイスクールを実施するビデオなどの視覚的な機器を用いて、学校の概要説明をし、在校生の学校生活体験談・授業見学や部活動見学を通じて、本校の特色を理解してもらう	A	
	教職員の資質向上	人権推進体制の確立と校内外での研修の実施	6	人権に関する校内研修会を年に1回以上は実施する	B	7 研究授業はよくやっていると思う。今年度は特に指導訪問があったので検討会も充実していた
			7	学年教務及び指導力向上委員会とタイアップして、研修会や研究授業の実施に向けた積極的な取り組みをする	C	
		情報機器の活用と能力の向上	8	デジタル教材の共有化を図るために、機器の整備を行うとともに、より有効な活用法を研究する	C	7 各教師の積極的な意思が必要 / あまり積極的な取り組みがなされていない 8 個人的にはあまり活用していない / 情報機器については、知識・技術がある教師に頼っているのが現状である / 自分が使えていないので評価できない / 使い勝手を良くしてほしい 9 各部署の意識が低い / 自分が使えていないので評価できない 10 実施されていない / 自分が使えていないので評価できない / 初心者向けの研修会をしてほしい / 情報機器活用やエクセル利用の研修会を実施すべきであった / 教科指導力を磨く取り組みが個人任せで組織化されていない。先駆的な学校では最近進んでいるようなので、検討してみてもよいのでは / 情報分野が独立した組織として動いていない。個人的な技量に頼っている 11 学年外担当教員と学年との間で、年2回程度の情報交換会があってもよいと思う / 生徒指導に関する事例はもっと教師間で共有すべきだと思う
			9	教職員間の情報の共有化を図るためにファイルサーバーによって文書を共有化する	C	
			10	職員研修会を実施し、情報活用能力の向上を図る	C	
		教育相談研修会の実施	11	生徒理解のために生徒情報の随時交換を行う	B	
			12	職員研修会(11月)を実施し、生徒理解を深め、生徒支援を充実させる	B	

危機管理体制の整備	防災教育職員研修会の実施	13 2月に実施する研修会を継続し、「地震防災・危機管理マニュアル」の中身の充実と職員への徹底を図る	B	13 防災・減災に関する学習を教師も生徒ももっとすべきである 14 あちこちが開いているので対応できない / 徹底されていない 15 美化に対する意識が低い / 職員トイレがあまりきれいでない上に、生徒にさせるのは良くないと思います 17 忘れていたりするので、職員室にマニュアルを常に掲示してほしい / 緊急時の対応について研修会を持つべきである 20 管理については、ある程度個人に任されている。またそうでなければ業務に支障をきたす
	来校者への対応	14 来校者に対する対応の仕方を取り決め、周知徹底する	C	
		15 玄関・窓口・トイレ等の環境美化	C	
		16 窓口での迅速・親切・丁寧な対応	B	
	学校管理下の事故に対する体制の徹底	17 緊急時対応マニュアルの徹底を図る	C	
		18 心肺蘇生法の研修を実施し、救急処置の知識・技能の向上を図る	B	
19 「地震防災・危機管理マニュアル」の中身の充実と職員への徹底を図る		B		
情報管理の徹底	20 個人情報が含まれる文書等、忘失紛失等が生じないよう管理を徹底する	B		
適正な予算執行	経理事務の厳正化	21 複数人によるチェック体制の強化	B	21、22 よくわからない 23 各階のトイレの電灯・換気扇のスイッチは独立させなければ、非常に無駄である
		22 公印・公金・物品を厳正に管理	B	
		23 光熱水費等の経費節減に努める	B	
学習指導	自学自習の態度の育成	24 予習・復習を最優先して行わせる	C	24 個々の生徒に応じた勉強時間の確保が不十分 25 課題学習の成果をきっちり評価できる仕組みが必要 26 見直しが必要 / 土曜自習教室をもっと充実させるべきである。このために今後は同窓会館の活用を考えるべきである 27 学力高く志望も高い生徒への働きかけをもっとすれば、意欲も学力もさらに高まると思う。しかけが少ないのでは / 教師側の放任主義が無規律な授業の状況をつくりだしていると思う。もっと評価基準を厳しく改め、厳格な運用で生徒に学習意欲を促すよう管理職は指導力を発揮してほしい 28 教科によって実施時間が足りない 29 小論文指導は、低学年ではほぼ国語科に任されている / まだ本格的にはしていない 31 学力低位の生徒対策を今よりもっと充実させるべきである 32 シラバスが不十分。活用できるものを作成すべきである
		25 長期休業中の課題学習を通じて、学習習慣の形成を図る	B	
		26 土曜自習教室(全学年14回)を充実させる	B	
	授業・考査の充実と有効活用	27 自己の学力を認識させ、伸長させる	C	
		28 定期考査・実力考査、模試の誤答の見直しを確実にさせる	C	
	小論文指導の確立	29 各教科との連携を図り、計画的に指導する	C	
	学習支援	30 補習(全学年)への積極的な参加を促す	B	
		31 基礎学力不足の生徒に対しては補充を行う	B	
		32 シラバスを全学年分作製し、活用を図る	B	
生徒指導 四綱領「質素・剛健・自重・自治」に基づく指導	基本的な生活習慣の確立	33 HR、集会(全校・学年)を通して、社会の一員としてのマナーを身につけさせる	C	
		34 登下校指導を通して、通学マナーを徹底させる	C	
		35 17:50下校の厳守を全教師の指導の下に行う	B	

教育課程	生徒指導 四綱領 「質素・剛健・自重・自治」に基づく指導	部活動の充実	36 部活動への積極的参加を促す	B	33 呼びかけをもっと継続的にする / 中心となる部署を決めてほしい。すべて学年中心 / あいさつをさせるように指導を強化したほうがよい / 自由といえどもメリハリ、やるべきときには行動できるよう指導することは必要なのでは。その線引きができていない生徒も目立つ 34 指導はしているが・・・ / 毎年同じ指導をしないといけない / 「指導」をしているのか 35 「なぜ17:50なのか」わからせる必要 38 一部の生徒
			37 練習内容の効率化を図る	B	
		学校行事等への主体的参加	38 文化祭・体育祭・コーラス大会・野外活動・修学旅行等を活用し、個々の生徒に役割を持たせ、責任感及び協調性や独創性を育む	A	
	進路指導	将来の職業研究	39 1学年の夏季休業中に職業調べをさせ、理解を深める	B	40 キャリアサポーターの人数をもっと多くしてほしい / 大企業の人事採用担当者にどんな大学生を採用したいかというような内容の講演会を計画してはどうか 41 キャンパストライアルは大学生にまじって体験する方法では、大学サイドにも負担が大きく、生徒も効果が薄い。高校生向けミニ講義(見学つき)へシフトしてはどうか 44 ホームルーム、集会づくりが必要。モチベーションを高めるアプローチがもっとあってもよい
			40 キャリアサポートシステム(1学年・7月)・進路講演会(各学年1回)の積極的活用を図る	B	
			41 神戸大学へのキャンパストライアル(1学年・11月)を有効に利用し、生徒の職業選択意識を高める	B	
			42 オープンキャンパスやインターンシップ事業に参加させ、進路への理解を深める	B	
		生徒の適性に 応じた個別 指導の充実	43 志望校を目指して最後までがんばるように指導する	B	
			44 様々な進路情報を、より正確に生徒・保護者に伝達する	B	
	保護者との連携	45 保護者向け進路講演会(年1回)を実施する	B		
46 進路関係の保護者会を行う		B			
特色ある教育課程の充実	教育課程の検討	47 H22年度に向けての教育課程の検討をすすめる	B	47 総合学習の時間をもっと有効活用したほうがよいのでは	
保健・安全 教育の充実	生徒・教職員の主体的な健康づくり	48 保健指導プリント・保健ジャーナル等を発行し、心身の健康の自己管理能力の向上を図る	B	52 現在のように毎年続けるべきである	
		49 保健講演会(1・2学年・12月)を実施し、保健知識・実践能力の向上を図る	B		
		50 学校医健康相談・キャンパスカウンセリングの積極的な活用を推進する	B		
	生徒の事故対策指導	51 運動部生徒への安全講習会(6月)を実施する	B	52 外部団体の指導により、1年生全員と教職員を対象に、心肺蘇生法とAEDの講習会を実施する	
		52 外部団体の指導により、1年生全員と教職員を対象に、心肺蘇生法とAEDの講習会を実施する	B		

課題教育	人権教育の充実	差別のない職業・進路意識の確立	53 人権映画鑑賞会を実施し、生徒に感想文を書かせ、HR運営の材料にする	B	
		人権意識を育てる身近な体験学習の実施	54 ふれあい育児体験(1学年)を実施する	B	
	国際理解教育の充実	自国や外国の歴史・文化の理解	55 インターナショナルデーを生徒主体で企画・開催する	B	
			56 上海松江二中との友好的な交流を推進する	B	
	環境・福祉教育の充実	地域貢献活動への参加	57 通学路清掃をする(年3回)	B	
		学校美化・衛生意識の向上	58 床磨き・ワックスがけ・モップによる特別清掃を実施する	B	57 年3回は多い
			59 整美委員による清掃点検活動を実施する	B	
			60 保健委員による石けん液当番を実施する	B	
	図書室の積極的活用	学校図書の授業等への積極的活用	61 各教科の推薦図書コーナーの充実を図る	C	
		読書会の充実	62 クラス読書会(年1回)・全校読書会(年2回)をより充実させる	B	61 自分がやれていない / 他校と比較して蔵書数が少ないように思われる 62 読書会が名前だけになってはいけない。もっと充実させるべきである / 読書会が時代のニーズに合致していない気がする。形式を大幅に改めてみては / 全校読書会が、生徒では図書委員だけの参加となっている

総合評価

教育活動はおおむね適切に行われているが、それに満足することなくより高いものを目指している職員の評価は厳しい。今年度は創立100周年に当たり、同窓生と共に活動する演奏会やスポーツ行事に参加し、地域の関心の高さや期待の大きさを生徒も強く感じ、兵庫高校生としての自覚が増した。しかし学力向上や、進路保障、生徒のマナー指導、環境美化の取り組みについてはまだ課題が残っている。保護者や地域に対する広報やHPの充実、教育機器の活用への更なる工夫が必要である。

外部評価

適切に教育活動が行われていると評価できる。学校側は学力低下を言われるが、実際どのような状態なのかがよく分からない。コミュニケーション能力や文章力は大切な能力なので、就職活動を終えたばかりの大学生の体験談を聞く機会を持つとか、きちんとした文章を読ませるなどもっと手立てが必要である。学校のホームページを一番関心を持って見ているのは、中学3年生とその保護者である。その点を意識した内容作りをすべきである。情報機器の進歩は想像以上に早いので、対応を個人に任せるのではなくサポートが必要である。その他多数のご意見を頂いた。

次年度の課題・改善策

創立100周年も過ぎ、選抜制度も変更になり特色作りを図らねばならないなど学校も変革の年を迎えます。これまで以上に指導力・指導方法の改善など学力向上の取り組みや生徒のマナー・モラルの向上は急務であり、更に研究と実践が必要である。教育活動や特色を地域の人々により知ってもらうための広報活動充実のため、学校公開やHPの更新やパンフレットの刷新など具体的な取り組みが求められる。